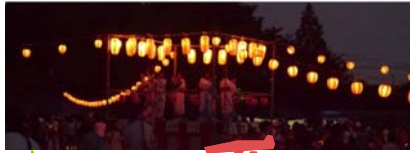


活動レポート



納涼 みつけ夏まつり

H24年8月4日(土) 16:30~20:00 見付小学校校庭

恒例になった薄暮の夏まつりには、校庭を囲んでたくさんの模擬店が軒を並べ、延べ約1500人の住民が参加しました。ゲーム屋台の前には明るいうちから子どもたちが集まり、あちこちから歓声が絶えない楽しい夏まつりでした。



菓子まき



見付学区 敬老会

H24年9月9日(日) 10:00~ 本山生活文化会館(本山)
学区の高齢者など約230人が参加。式典のあと、バイオリン中川夫妻、チェロ柳田さん(いずれも学区在住)にピアノの増田さんを加えた弦楽四重奏の演奏を楽しみました。



とんぼ第2学童保育所だより

学童保育所とは、共働きの家庭の児童を保育する「留守家庭児童育成事業」の助成をうけて、父母により運営されている保育所です。
とんぼ第2学童では、主に見付小・田代小の児童を放課後に保育しています。
※詳しくは「とんぼ学童」で検索してホームページをご覧ください。

おかげさまで一軒家に移転できました！

地域の皆さまのおかげで、昨年9月に穂波町の一軒家に移転しました。これまではビルの店舗跡を改装して保育していましたが、移転後は庭遊びをしたり、緑側や畳の部屋でのびのびと生活できるようになりました。子どもたちも「ただいまー！」と毎日元気に帰ってきます。



庭ではみんな泥遊びに熱中



夏休みには愛知県警を見学

夏休みを安全に過ごすため、愛知県警を訪問して、いろいろな事を学びました。



みつけ掲示板

防災訓練

●H25年3月2日(土)午前
見付小学校校庭



地域の高齢者の方々をお招きし、手づくり料理と催し物を楽しみます

見付ふれあい食事会

●H25年3月4日(月)10:50~
在宅サービスセンター

就園前の親子が気軽に集まり、子育てについて自由に語れる場です

ふれあいサロンみつけ

●H25年2月20日(水)10:00~11:30
在宅サービスセンター

編集後記

阪神淡路大震災の時、東灘小には約4000人が殺到！平均で1避難所あたり約370人(ピーク時)が寝泊まりしたそうです。避難所の整備は見付学区でも緊急の課題です。【編集室】tel: 782-6863 (黒岩) e-mail: Hourensou@lincom.co.jp

- 特集 見付学区の避難所を考える
- 防災ジュニアリーダー養成講座
- 活動レポート
みつけ夏まつり
見付学区 敬老会
とんぼ第2学童保育所だより
- みつけ掲示板

みつけ 第7号

ホウレンソウ

手づくり学区報

報告 連絡 相談

【特集】見付学区の避難所を考える

避難所は「避難生活」をする場所です。

見付学区の避難所は、見付小学校・名古屋大学教育学部附属学校・見付コミュニティセンターの3カ所です。災害のときに緊急避難する「一時避難場所」や平和公園や東山公園などの「広域避難場所」とは異なり、「避難所」は、災害で自宅に住めなくなったときに一定期間の避難生活を行う施設です。

震災や浸水で自宅に住めない住民が避難

避難所は、地震などで住宅が壊れたり、失われるなどして生活できなくなったとき、あるいは豪雨で浸水被害や土砂災害を受けるおそれがある場合に、避難生活の場所として開設されます。学区内には見付小学校、名古屋大学教育学部附属学校、見付コミュニティセンターの3カ所の避難所が指定されています。

避難所では、プライバシーが守りにくい中で大勢の人が共に生活しなければなりません。食料や物資は不足し、トイレにも不自由します。このストレスの多い避難生活を少しでも良くするためには、避難者同士が協力することが必要です。

具体的には、避難者の中からリーダーを選び、区政協力委員(兼災害対策委員)や「みつけ防災会」メンバー、学校の教職員、市職員、ボランティアの支援を受け、高齢者などの災害弱者にも気を配りながら、自主運営していきます。

驚くほど貧弱な避難所の災害備蓄

市立小・中学校には防災備蓄倉庫があり、防災設備や避難生活のための物資を行政が備蓄しています。見付小学校には応急給水施設があり、地下式の給水栓から給水できるようになっています。他の避難所にも同等の備蓄がありますが、多数の避難者が押し寄せた場合には食料や毛布の量が全く不十分です。



写真：東日本大震災における避難所(ロイターより)

行政としては、避難する住民自身が数日分の食料や水などを持参するよう勧めています。しかし、被災した高齢者や幼児を抱えた住民が遠距離から歩いて避難する場合、これは現実的ではありません。そこで学区としても必要物資の備蓄をしていかなければなりません。非常食を一定期間ごとに買い

替えたり、さまざまな防災設備機器を備えるための資金をどのように手当てするか、難しい問題が立ちはだかっています。

求められる各家庭での防災・減災対策

当面の有効な対策として、住民自身が家の耐震補強や家具の固定を行い、3日分程度の食料や水を常備することで、避難所に行かなくても生活できるように備えておくことが望ましいといえます。とはいえ避難所をきちんと整備していくことは減災対策の基本です。学区としても住民の皆さまのご理解とご協力を得ながら、学区連絡・みつけ防災会・見付消防団が区とも連携して、現実的な対策を講じていきたいと考えています。

各避難所ごとの公的防災備蓄は **これだけ！**

- 乾パン 256食
- アルファ化米おかゆ 50食
- 毛布 50枚
- 日用品セット 50組
- 仮設トイレ 1~3組

たった

見付小学校

西側正門付近



防災備蓄



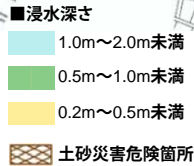
デジタル移動防災無線



特活室には災害救助地区本部が置かれ、学区の救援活動の拠点となる。防災無線網を通じて、区本部や他地区の避難所などとの間で迅速な情報交換ができる。

豪雨時の避難には注意が必要

水害のおそれがある場合には、市から避難勧告や避難指示が発令され、それを受けて該当地域の方たちが避難します。しかし豪雨が続いた場合には、見付小や名大附属学校への避難路の一部（地図の着色部）が浸水するおそれがあります。また土砂災害によって道路が通れなくなる可能性のある場所もあります。このため、避難勧告より前に出される「避難準備情報」が発令された段階で、早めに自主避難することも考えておきましょう。



見付小西側の山崎川

【特集】見付学区の避難所を考える

避難は徒歩が原則です。あなたは自分の足で避難所まで行けますか？

学区東南部からは避難所が遠い

東山元町など学区の東南部から見付小学校までは約2.5kmと遠いため、スペースが狭い見付コミセンに住民が殺到することも想定され、収容しきれなくなりそうです。一方、名大附属学校までの距離は見付小より近く急坂も少ないので、学区東部の方たちはできるだけ名大附属学校に避難されるようにお勧めします。地震はいつやってくるかわかりません。停電で真っ暗になった夜道を避難することになるかもしれません。ぜひ一度は避難所まで歩いてみてください。避難路に危険な場所がないかもよく見ておきましょう。



見付コミュニティセンター



東部の方には「投票所」でおなじみ



会議室（1F） 和室20畳（2F）

名古屋大学教育学部附属学校



避難所となる第一体育館



四谷インター近くの名大北門から入る



秋の学園祭では、住民参加で避難所を見学

見付学区 防災ジュニアリーダー養成講座 都会のサバイバルキャンプ実施！

みつけ防災会 認定NPO法人名古屋青少年活動支援ネット 共同開催



- 1回目 見付消防団の指導で、AEDを使った救命法、ロープ結び、消火器の使い方などを実施。
- 2回目 みつけ防災会の小塚氏の指導で、様々な被災状況を想像する訓練、身近なモノの活用法を学習。
- 3回目 見付コミセンで避難所体験。梱包材で作った寝袋で寝たり、避難所で実際に食べた食事なども経験。

災害時に子どもたちが自分で身を守り、救命・救援に役立つ知識や知恵を身につけてもらうため、10月20日から3回連続の講座が開かれました。子ども会の協力を得て小4～中2の25人が参加。修了者は防災ジュニアリーダーに認定され、中級(2回参加者)以上にはそろいのリーダーキャップが贈られました。